

氏 名：内田 貴峰
学 位 の 種 類：博士(看護学)
学 位 記 番 号：博看護第3号
学位授与の要件：学位規則第4条第1項該当
学位論文題目：育児期への移行期にある夫婦の家事・育児における認識の違いに
基づいた夫婦の関係調整プログラムの開発
研究指導教員：米山 万里枝
研究副指導教員：廣田 栄子
論文審査委員：(主査)廣島 麻揚 (副査)佐々木 美奈子
(委員)李 廷秀 (委員)渡邊 典子

論文審査結果の要旨

内田貴峰氏の博士論文は4名の審査委員によって、書面による審査及び口頭試問により厳正に審査された。

本報は、育児期への移行期にある夫婦の家事・育児における認識の違いを明らかにし、その結果を生かして夫婦の関係調整プログラムを開発している。

まず第1段階として、妊娠から育児への移行期における、家事・育児に関わる夫婦の関係について、妻の叙述に基づいて実態と課題、さらに育児期にある妻が夫に抱く葛藤と回避、夫婦関係を調整する経緯について明らかにしている。

次に、育児行動が安定する産後3, 4か月の夫婦について、「夫婦ペアレンティング調整尺度」「夫婦コミュニケーション態度尺度」「コーピング尺度」を用いて、夫と妻の認識の違いを明らかにしている。

最後に、これらの結果に基づいて、妊娠から育児への移行期の夫婦の関係調整支援プログラムを開発し、助産師による支援のあり方について提言している。

本報は、育児期に必要となる夫婦の関係調整に着目し、妊娠期の親準備教室において、夫婦の関係調整を支援するためのプログラムを開発している。国内の親準備教室において、このような夫婦の関係調整に着目したプログラムはなく、この点において独創性があると判断される。子育ての孤立化が進み、虐待などの社会問題が指摘される中で、育児を担う夫婦自体の関係を育む支援プログラムは、臨床上大変有益なものとなっており、意義深く「博士論文として認定できる」と判断する。

令和5年2月13日

論文審査委員(主査)氏名 廣島 麻揚